南海トラフ広域地震防災研究プロジェクト・第 11 回東海地域研究会にて講演しました（2018/07/17）

テーマ：南海トラフ地震・津波
場所：名古屋大学減災館（名古屋市千種区）

７月 17 日（火）に，名古屋大学減災館（名古屋市千種区）にて，「南海トラフ広域地震防災研究プロジェクト・第 11 回東海地域研究会」が開催され，当研究所の佐藤翔輔准教授（情報管理・社会連携部門）が講演を行いました．本学では，近い将来の発生が危惧される南海トラフ広域地震による地震・津波災害の軽減に貢献するため，大学や地方自治体等の関係者と連携し，８年間の特別研究である文部科学省委託研究「南海トラフ広域地震防災研究プロジェクト」に取り組んでいます．このプロジェクトは、最先端の研究成果を実社会における防災・減災対策に役立たせることを念頭に，南海トラフ広域地震による被害が予想される各地域のコミュニティとの連携を進め，地域防災力の強化に貢献することを目標の一つとしています．同研究会は，このプロジェクトについて各地域の皆様に広く知っていただくためのキックオフシンポジウムを開催するとともに、地域ごとの課題抽出や防災・減災対策の検討を進める場として，四国，九州，関西，東海の４地域において地域研究会が開催されています．

佐藤翔輔准教授は，「経験・共有の継承を通した災害対応人材育成のあり方」と題して，東日本大震災を事例にした津波伝承の実態・効果，災害対応の経験を共有する取り組み，災害時に必要な「生きる力」について情報提供を行うとともに，昨今発生した大阪府北部地震や平成 30 年７月豪雨（西日本豪雨）の事例を踏まえた考察について講演を行いました．研究会には，約 60 名が参加し，大学関係者や地元自治体関係者との活発な質疑応答が行われました．

会場の様子

文責：佐藤翔輔（情報管理・社会連携部門）